



ふじかわ

編集・発行 苅田町青少年育成町民会議 ☎093・434・9838



▲大生 雅月さんの作品



▲久保田 綾香さんの作品

★県民会議ポスターで優秀賞受賞！

福岡県青少年育成県民会議が募集した「家庭の日・オアシス運動」ポスターの部で、苅田町から、大生雅月さん（馬場小5年）と久保田綾香さん（馬場小6年）が優秀賞を受賞しました。※作文の部奨励賞作品は4ページに掲載しています。

原稿募集！「コロナの時代をどう生きるか」

3ページ

感染防止を徹底して、 一緒に乗り越えましょう！

荻田町長 遠田 孝一



令和二年は新型コロナウイルスに翻弄された一年になりました。町民会議におかれましても、事業の中止・縮小などで感染防止にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、手づくりマスク絆プロジェクトに取り組まれておられることにも敬意を表させていただきます。

皆さまの日常生活におかれましても、大変なご不自由をされていることと思います。しかしまだまだ終息にいたりそうにはありません。

荻田町でも90名以上の新型コロナウイルスの陽性患者が発生しております。(2月2日現在)

引き続き、マスクの着用やこまめな手洗いなど「五つの行動目標」の実践や、国の接触確認アプリ「COCOA」(ココア)の利用など、感染防止対策の徹底をお願いいたします。

また、寒い季節ですが、感染防止対策における換気の重要性を再認識いただき、こまめな換気をお願いいたします。併せて、感染拡大地域に行かれる場合は、より一層の注意をしていただきたいと思います。

若い皆さまは症状が出にくく、感染していることに気が付かないこともあるようです。

「密閉」「密集」「密接」、この三つを避ける「NO!3密」行動が、極めて重要です。命を守るためのご協力、よろしくお願いいたします。

荻田町としましても、引き続き強い警戒感を持って、感染防止対策を行ってまいります。

皆さん、一緒に乗り越えていきましょう。

コロナ禍のピンチを チャンスにかえて！

荻田町教育長 井上 三津子



2021年、東京オリンピックが開催される年となりました。今年には、コロナが終息し、明るい日々を取り戻す希望の年になるようにと強く願っています。

昨年は、コロナに始まりコロナに終わった我慢の一年間でした。学校では、これまでに経験したことのない3カ月間にわたる臨時休校もありました。そのような苦しい日々のなかでも、学校が再開してからは、新しい生活様式を守り、三密を避けるような学習活動が工夫され、子どもたちが生き生きと学習する姿を見ることができたの

が大きな喜びでした。また、ごく普通の日常を過ごせることの幸せや、支え合うことの大切さを改めて感じることもできた一年でもあったように思います。

「ピンチをチャンスにかえる」この言葉を胸に、コロナ禍の経験を踏まえ、一人一人がみんなのためにできることを考え、行動すれば、きっと未来は明るい日になることでしょう。

今後も感染を避けるために、気を緩めることなく新しい生活様式を徹底し、三密を避ける取組を進めていきます。また、どんな状況になっても、子どもたちが自分で学びを進めていくことができるように、学校では学び方を学ぶ学習も工夫して行っています。さらに地域の方々やご家庭のご協力もいただきながら、子どもたちの健全な成長を図っていきたくと考えています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

大人になった子供達との 再会を喜ぶ

会長 三角 主計



令和二年は、新型コロナウイルスの猛威に見舞われた一年でした。町民会議のメイン行事である親子ふれあい広場や木工教室などが軒並み中止となりました。

そんな中、私は南原小学校の児童達の朝の通学時の声かけと見守りを続けています。この活動は19年続けております。下校時は、毎日とは出来ませんので、都合のつく日に歩いて見守りをしております。毎日続けることで子供達の笑顔と笑い声に励まされ、今まで風邪も引かず病気もせず、頑張っております。

この中で嬉しい出来事をいくつか紹介します。まず、成人式に出席すると、美しく着飾った女の子達から、「三角さん元気にしとった？私、誰かわかる？」と声をかけられたこと。街中で「三角さん、元気やな」と小学校時代の「悪ガキ」から声をかけられること。下校時にカバンを下げたままタバコをスパスパと吹かしながら帰ってくる子に「身体に悪いから吸わない方はよいぞ」と声をかけたこともありましたが、その中の一人が、十年くらいたったある日、突然、若い娘さんを連れて「俺、嫁さんをもらった」と我が家を訪ねて来てくれたことがあります。その一年後には、丸々と太った赤ちゃんを抱いて、「俺、親父になった」と再度訪ねて来てくれました。

今まで子供達と関わり続けた褒美だと、涙が出る程嬉しくなりました。今後とも身体の動く間は、子供達を見守りながらの触合いを続けようと強く思いました。

「コロナの時代をどう生きるか」原稿募集

新型コロナウイルスが猛威を振るい、外出自粛、ソーシャルディスタンスなど、これまで誰も経験したことのない事態が続いています。しかし、それ故に、普段気付かないことに気付いたり、ライフスタイルを見つめ直したりする機会が生まれたのではないのでしょうか。

そこで、町民会議では今秋に、広報紙「すこやか」特別号を発行し、「コロナの時代をどう生きるか」をテーマにした随筆（エッセイ）を掲載して、「変化する時代の証言」として残していきたいと考えています。※掲載された方には原稿料として図書カードを進呈します。

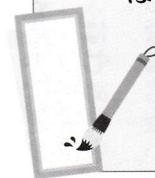
募集要項

- 字 数 800字～1200字程度（原則として縦書き）
- 応募条件 どなたでも（会員でなくても応募できます）
- 応募方法 郵送またはメール（メールで応募の場合はA4横40字×30行）で。氏名、性別、年齢、住所、電話番号をお書きください。
- 締 切 7月30日（水）

応募・問い合わせ先

〒800-0352 福岡県京都郡苅田町富久町1丁目19-1
三原文化会館内 苅田町青少年育成町民会議事務局
TEL・FAX 093・434・9838
E-mail: tyouminkaigi@sco.bbiq.jp

川柳も募集！
様式は自由です。奮ってご応募ください。掲載者には粗品を進呈します。



令和二年度

「家庭の日・オアシス運動」

応募作品入賞者

青少年育成県民会議が募集した

「家庭の日・オアシス運動」作品に、コロナ禍で大変な中にもかかわらず、多くのみなさんにご応募をいただきました。ありがとうございました。ありがとうございます。お田町関係の入賞者は次のとおりです。（敬称略）

【ポスターの部】

優秀賞 大生雅月（馬場小5年）、
久保田綾香（馬場小6年）
奨励賞 東優衣香（馬場小5年）、
古屋ひまり（馬場小6年）、八代
夢叶（馬場小6年）

【作文の部】

奨励賞 串間健太（南原小6年）、
石山葵（荻田中1年）
※作文の部で奨励賞を受賞した串
間さんと石山さんの作品を掲載し
ます。



▶ 応募があったポスター作品

作文の部奨励賞

ぼくの思いやり

南原小学校六年 串間 健太

ぼくには一年前から、体が少し
ずつ動かなくなり、今では車イス
生活をしているおじいちゃんがい
る。体が不自由になっていくたび
に、生活が大変になっていった。

動く、起きる、座わるなど、何
も出さなくなっていく。家に一人
で生活出来ないことをぼくたち家
族で手助けをしている。家族から
何かを言われると、おじいちゃん

んは、「また」「もういいや」などと、口からは次々とあきらめているような言葉が出てくる。ぼくは、また、おじいちゃんを傷つけたのではないかと反省をす

る日々のくりかえしである。

ある日、車イスに乗ったおじいちゃんを病院に連れて行った。ぼくにとって、ふつうのことでもまわりは、ふつうのことではないらしい。ぼくたちが見る目が車イスに乗っているおじいちゃんや、おじいちゃんたちが何か悪いことをしているような視線を感じた。病気で病院に行っても歩いていれ

人ははなれたりしていく。ぼくは、思う。「すきでこんなふうになったんじゃないの」と。今だから思えるおじいちゃんが不自由になっていなければ、ぼくも他の人と同じ行動をしていたと思うのかもしれない。

かわいそうだと思っ

い。みんな一人の人間だから。今ぼくは、本当におじいちゃん

からの日本で必要であり、相手を大切にすることが大切だと思う。

そんな思いやりの心をぼくはずっと持ち続けていきたい。

作文の部奨励賞

勇気の一言

苅田中学校一年 石山 葵

私の通っていた小学校では日本

一元気なあいさつを目指していました。この目標は児童全員で考え出した他の学校と比べものにならない程、素晴らしい目標でしたが、私はこの目標が少し嫌いでした。なぜなら、この「あいさつ」には、立ち止まって、相手の目を見て、大きな声で、の三つを行った上での「あいさつ」でした。私は、人の目が怖く、足早に去って行く上、授業での発表、日常会話では程良い声で発言できるのに、「あいさ

つ」となると、つい、小声になってしまうのです。だから、「あいさつ」が嫌いでした。が、それ以上に「あいさつ」のできない私が嫌いでした。

そして、新型コロナウイルス感染が広がる中、私達は小学校を卒業しました。小学校とはあっさりとお別れができたのに、『あいさつ』だけは、心からなかなか離れてくれないのです。

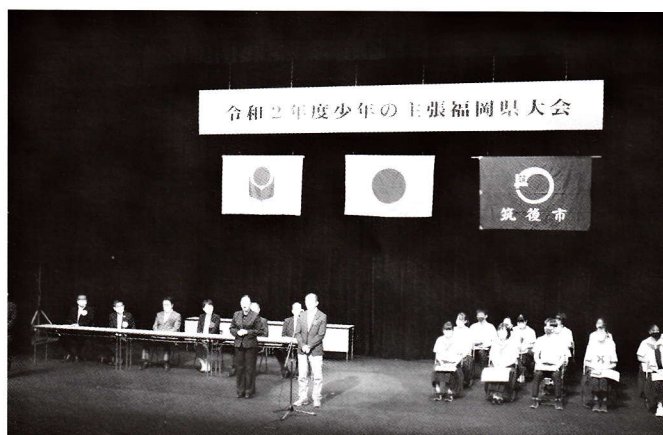
通常の登校が始まったの授業で私のクラスにはお願い事ができました。それは、朝、教室に入ったら「あいさつ」をしよう。というものでした。私は、小学校でできなかった「あいさつ」をもう一度やり直せるかもしれない。そう思っていたけれど、思うように声が出ず、小声で言うてしまうのです。同じ「あいさつ」を繰り返す日が続いていく中で私の気持ちを飛ばす出来事が起こりました。そ

れは、入部した剣道部の顧問の先生の言葉でした。その言葉は、「剣道は礼儀が大事だ。何かしてもらう時は、お願いします。してもらった後は、ありがとうございます。悪い事をしてしまったら、すみませんでした。朝、先生方と会ったら、おはようございます。などの挨拶を心の底から、自分からすることがしっかりとできることが大

事だ」と言う言葉でした。私はこれを聴いた時、今までしてきた行いを恥ずかしく、相手の人に対して、とても失礼な行いだ、この時、はっきりと分かったものでした。私は、明日教室に入ると、この言葉を思い出し、勇気の一言を私の心で、声で、態度で伝える。そうしたら、きっと今まで見えていなかったものが見えるだろうから。

少年の主張福岡県大会が苅田町で開催されます！

9月5日(日) 中央公民館



昨年8月29日に筑後市で行われた令和2年度福岡県大会で、令和3年度の大会を苅田町で行うことが決定しました。大会の最後に、門富副会長が来年度開催地を代表してあいさつしました。



▲白川小学校での贈呈式



▲片島小学校での贈呈式



▲ボランティアによるマスクづくり



▲寄せられた手づくりマスク



▲手づくりマスク 回収ボックス

**善意のバトンリレーが
続いています！**

副会長 門富 厳

日頃から町民会議の活動ならびに今回の『手づくりマスク絆プロジェクト』に関わって下さった全ての皆様に、深く感謝申し上げます。

この取り組みは、学校の一斉休校や緊急事態宣言下における非日常生活を送るなかで、マスクが慢性的に不足するという事態が生じ、町民会議が持つ強みを生かして何とかサポートしたいとの思いからスタートしました。

マスクが無いために買い物に行けない高齢者の方、「子供用マスク」がなくて子供に持たせられない保護者、購入したくてもマスクが不足し、医療従事者すらマスクが手に入らない状況などが見られる一方、「手づくりマスク」を作ったけど、誰に託したらよいかわからないといった善意の声も多くあ

りました。

荻田町役場やボランティアの方々の協力を経て、町内に回収箱を設置させていただいたところ、数多くの心のこもったマスクや生地を集めることができ、また、その生地を使ってマスク作り講習会を開催するなど、次から次へと善意のバトンリレーが続いています。

作成されたマスクを町内の小学校に配布したところ、受け取った児童から、自分でもマスクを作りたいといったお手紙を頂いたり、家庭科の授業で使われたりするなど、作り手の方にとって嬉しいお話も耳にするようになりました。本来はこのような活動が不要となる日常へ戻れることが望ましいですが、先行きは不透明な状況です。

これからも皆さんの善意の絆と一緒に、試行錯誤しながら乗り越えていきたいと考えています。

令和 2 年度 事 績

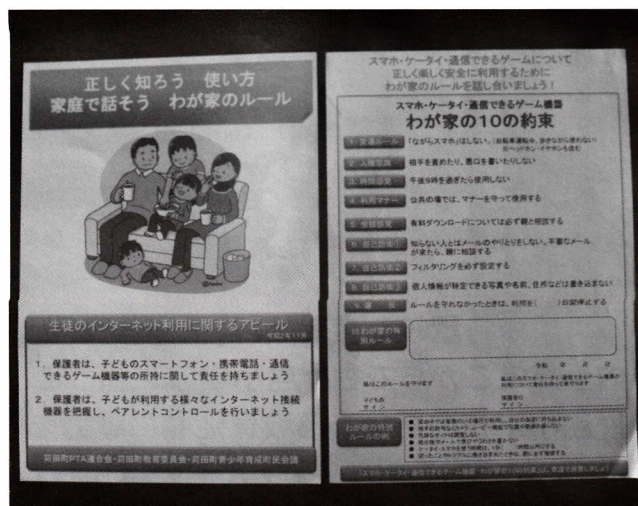
4月 7日	定期監査
4月 18日	理事会 総会の中止を決定。23日に会員あて文書を発送。
5月 14日	役員会 手づくりマスク絆プロジェクトについて。
6月 6日	理事会 手づくりマスク絆プロジェクトについて。親子ふれあい広場中止決定。
6月 23日	苅田町長表敬訪問
7月 15日	有害図書要望書提出
7月 16日	県民会議小原課長が来町。少年の主張福岡県大会の苅田町開催の要請を受ける。
8月 7日	理事会 少年の主張福岡県大会の苅田町開催受諾を決定。子どもフェスティバル木工教室中止を決定。
8月 27日	苅田町民生委員・児童委員協議会よりマスクの寄贈を受ける。
8月 29日	少年の主張福岡県大会（筑後市）参加。門富副会長が来年度開催地を代表して檀上挨拶。
9月 11日	役員会 「家庭の日・オアシス作品」（作文・ポスター）を県民会議に送付。
9月 23日	苅田町子ども会育成連合会の田口会長と子どもフェスティバルについて協議。
9月 30日	県民会議広報委員会（事務局長）
10月 9日	子供若者支援事業研修会（大分市）参加（事務局長）
10月 25日	子どもフェスティバル代替事業のウォークラリー大会の参加者に、森の学校制作の木工キットを参加賞として配布。
10月 28日	県民会議広報委員会（事務局長）
10月 29日	片島小学校に手づくりマスク贈呈。
11月 25日	県民会議広報委員会（事務局長）
11月 30日	手づくりマスク講習会
12月 11日	スマホの使い方啓発リーフレットを印刷し、全児童・生徒に配布。
1月 13日	役員会 広報紙すこやか 89号発行について。来年度事業について。
1月 14日	県民会議広報委員会（事務局長）
1月 20日	白川小学校 手づくりマスク贈呈式



▲ソーシャルディスタンスに注意しながら、理事会・役員会を開催しました。



▲ウォークラリー大会で、参加賞として木工キットを配布しました。



▲PTA のみなさんが編集したスマホの使い方啓発リーフレット

一人一人が主役で 一人一人が輝く 片島小学校

小規模特認校 入学(転学)児童を
募集しています!!

- ①可能性を伸ばし ②互いの良さを認め合い
③少人数だからこそできる ④学びがいっぱいの学校



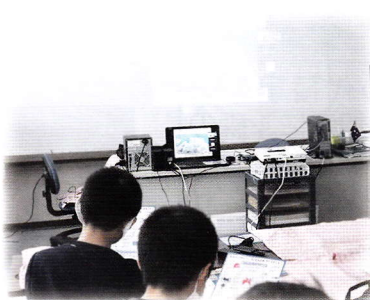
ICT機器を活用したきめ細かな指導



全校児童で鬼ごっこ(昼休み)



神楽の学習



日産自動車九州の
オンライン工場見学



地域の方の指導による栽培活動

小規模特認校制度とは、苅田町教育委員会の指定を受け、町内全域どこからでも片島小学校に通うことができる制度です。片島小学校の特色ある教育活動に魅力を感じ、ここで学んでみたいという方を何年生からでも受け入れています。入学・転学手続きは、まずは苅田町役場 教育総務課または片島小学校へ電話でお問い合わせください。

教育総務課 Tel093-434-1998 片島小学校 Tel0930-22-2495



福岡県公立学校優秀校表彰を
受賞(令和3年1月)